

【山の祭り】の歩み

昭和 32 年に【山の祭り】は始まった。

8 月 18 日、第 1 回夏季ラジオ体操が終了後、出席日数の多い子供には精励賞とノートを渡した。ノート一冊だけでは物足りないのではないかと、学用品とかお菓子を別に渡すことを考えたが、与えるだけでは詰まらないので、宝さがしをする事を定めた。

8 月 25 日（第 1 回開催日）に、元会長高田氏を中心に一王山の裏山に隠して、宝を探す予定でしたが、山の祭りの始まる頃には殆どなくなっていた。その上、お地藏さんの下を掘った後があり、滑った跡があるなど危険と器物損害の心配で住職さんからきつく叱られた。これが第 1 回の山の祭りでした。

その後、会長の握った碁石の数当てや、その当時登山回数のもっと多く登っていた会員の回数当てなどして景品を渡していた。その中、会員の中からお金を出してでも、もっと華やかな山の祭を望む人が増えてきて、協力金を出すようになりました。

昭和 34 年から 急速にアーチェリ（洋弓）が盛んになり、山の祭にも取り入れ、アーチェリで抽選して景品を渡すようになった。アーチェリの抽選も二十年程続きましたが、矢が吹き矢に、そして現在のルーレット方式に変わりました。

昭和 50 年前後、参加者は 700 人分を用意していたが、現在は 250 人分あれば十分です。

昭和 50 年に抽選会以外に、おしどり賞（夫婦あわせて 5,000 回賞）制定。第 1 回は十組の方に贈呈。その後、10,000 回にも記念品を贈呈するようになりました。

現在の山の祭の表彰は下記の通り。（※8 月最終日曜日 雨天の時 9 月第 1 日曜日）

おしどり賞 夫婦あわせて

- ① 20,000 回（少ない方が 8,000 回以上）
- ② 10,000 回（少ない方が 4,000 回以上）
- ③ 5,000 回（少ない方が 2,000 回以上）

累計登山回数 ① 15,000 回、 ② 10,000 回、 ③ 3,000 回

〈当時のお話〉は”一王山登山会の歩み”より